

公開シンポジウム「外国ルーツ青少年への初期段階支援とは—
『安心して学ぶ、暮らす』を支えるために」
2024年2月21日（水）

第1部 報告

「学びの継続を支える実践：一人一人に向き合って」

社会福祉法人さぽうと21

矢崎 理恵

■ 日本の難民受け入れ

我が国における難民庇護の状況等

(人)

| | 申請者数 | 難 民 | | その他の 庇 護 (注3) | 難民及び その他の庇護 合計 |
|------------|---------------|---------------|----------------------|---------------------|----------------------|
| | | 定住難民 (注1) | 条約難民 (注2) | | |
| 24年 | 2,545 | 0 | 18 (13) | 112 | 130 |
| 25年 | 3,260 | 18 | 6 (3) | 151 | 175 |
| 26年 | 5,000 | 23 | 11 (5) | 110 | 144 |
| 27年 | 7,586 | 19 | 27 (8) | 79 | 125 |
| 28年 | 10,901 | 18 | 28 (2) | 97 | 143 |
| 29年 | 19,629 | 29 | 20 (1) | 45 | 94 |
| 30年 | 10,493 | 22 | 42 (4) | 40 | 104 |
| 令和元年 | 10,375 | 20 | 44 (1) | 37 | 101 |
| 2年 | 3,936 | 0 | 47 (1) | 44 | 91 |
| 3年 | 2,413 | 0 | 74 (9) | 580 | 654 |
| 4年 | 3,772 | 35 | 202 (15) | 1,760 | 1,997 |
| 合 計 | 91,664 | 11,548 | 1,117 (162) | 5,049 | 17,714 |

(参考) (人)

| シリア人留学生の 受入れ (注4) | |
|-------------------------|------------|
| 平成29年度 | 28 |
| 30年度 | 29 |
| 令和元年度 | 22 |
| 2年度 | 16 |
| 3年度 | 20 |
| 4年度 | 6 |
| 合計 | 121 |

日本の難民受け入れ

我が国における難民庇護の状況等

| | 申請者数 | 難民 | | その他 の庇 護 (人) | 難民及び その他の庇護 合計 |
|-------|--------|--------------|---------------|-----------------------|----------------------|
| | | 定住難民 (注1) | 条約難民 (注2) | | |
| 昭和50年 | 15 | 0 | 18 (13) | 112 | 130 |
| 51年 | 60 | 18 | 6 (3) | 151 | 175 |
| 52年 | 5,000 | 23 | 11 (5) | 110 | 144 |
| 27年 | 586 | 19 | 27 (8) | 79 | 125 |
| 28年 | 71 | 18 | 28 (7) | 97 | 143 |
| 29年 | 19,6 | 29 | 20 () | 45 | 94 |
| 30年 | 10,493 | 22 | 42 (4) | 40 | 104 |
| 令和元年 | 10,375 | 20 | 44 (1) | 37 | 101 |
| 2年 | 3,936 | 0 | 47 (1) | 44 | 91 |
| 3年 | 2,413 | 0 | 74 (9) | 580 | 654 |
| 4年 | 3,772 | 35 | 202 (15) | 1,760 | 1,997 |
| 合計 | 91,664 | 11,548 | 1,117 (162) | 5,049 | 17,714 |

【条約難民】
アフガニスタン 147人
ミャンマー 26人

【人道配慮】
ミャンマー 1,682人
アフガニスタン 10人

【第三国定住難民】
人数拡大、対象国拡大

(参考) (人)

| シリア人留学生の 受入れ (注4) | |
|-------------------------|-----|
| 平成29年度 | 28 |
| 30年度 | 29 |
| 令和元年度 | 22 |
| 2年度 | 16 |
| 3年度 | 20 |
| 4年度 | 6 |
| 合計 | 121 |

■「補完的保護対象者」認定制度の開始

- 2023年6月に成立した改正入管法により、「難民」の要件のうち迫害を受けるおそれがある理由が5つの理由（人種、宗教、国籍、特定の社会的集団の構成員であること、政治的意見）であること以外の要件を満たす者を保護する制度
- 補完的保護対象者の認定を受けた者には、条約難民と同様、原則として「定住者」の在留資格を付与

補完的保護対象者等への
支援について

Support for Persons Subject to Complementary Protection

世界をつなぐ。未来をつくる。
出入国在留管理庁
I S A Immigration Services Agency



https://www.moj.go.jp/isa/support/fresc/12_00122.html

■ さぽうと2 1の学習支援事業

- 多くのボランティアの方々の市民力に支えられて、学習支援事業を展開
- 「就学支援金支給事業」「相談事業」と重なり合いながら事業を展開

「伴走」・・・「卒業」はない。長期的関わり

「包括」・・・「子ども＋家族」「学習支援＋相談」

「連携」・・・多くの団体・個人とのやりとり

拠点型 + オンライン型 + オンライン / 拠点型 + アウトリーチ型

【拠点5】
たてばやし教室
ロヒンギャ難民二世

2022.2～

夏休み・春休み集中学習支援教室

親向け・若者向け 生活勉強会

教材の無料公開

オンライン型

拠点（教室）型

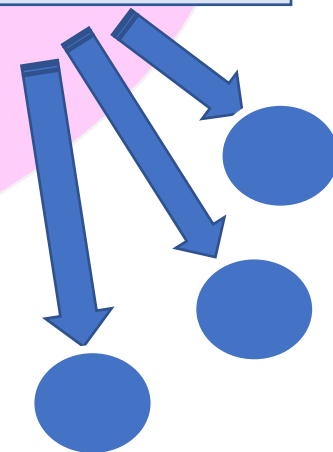
アウトリーチ型

【拠点1】
目黒教室
子どもから大人まで
毎週土曜日

【拠点2】
錦糸町教室
子どもから大人まで
毎週日曜日
2017.4～

【拠点3】
稲毛・行徳教室
ムスリムの小中学生
土曜日か日曜日
2020.7～

【拠点4】
高洲教室
第三国定住 小中学生
平日の夕方
2021.4～



拠点型 + オンライン型 + オンライン / 拠点型 + アウトリーチ型

宇都宮教室

小山教室

花見川教室

夏休み・春休み集中学習支援教室

【拠点5】
たてばやし教室
ロヒンギャ難民二世

2022.2～

【拠点6】
がくぷろ教室
アフガン難民二世

2023.6～

親向け・若者向け 生活勉強会

教材の無料公開

オンライン型

拠点（教室）型

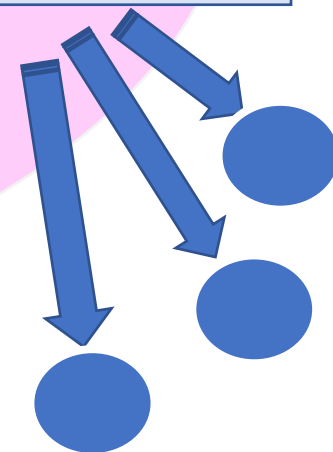
アウトリーチ型

【拠点1】
目黒教室
子どもから大人まで
毎週土曜日

【拠点2】
錦糸町教室
子どもから大人まで
毎週日曜日
2017.4～

【拠点3】
稲毛・行徳教室
ムスリムの小中学生
土曜日か日曜日
2020.7～

【拠点4】
高洲教室
第三国定住 小中学生
平日の夕方
2021.4～



■ 事業開始までの経緯

2021年秋ごろからアフガニスタンの方々の退避・入国が始まる

⇒⇒2022年03月 他団体からの依頼で、一部の小学生対象の学習支援（約1か月）

⇒⇒2022年08月 自主事業（ファーストリテイリング財団助成）で若者対象の日本語支援（約1か月）

20家族ぐらゐのアフガニスタン退避グループとつながりができる

⇒⇒2022年12月～ 物資支援（だんぷろ・こめぷろ）にて定住先訪問、ヒアリング実施

子ども、若者への教育面での支援を模索

⇒⇒2023年06月～ 本事業にて 小中学生対象のオンライン学習支援開始（がくぷろ）

■「がくぷろ」で学ぶ子ども達

※複数事例を混ぜて、例示しています。



また 引っ越し？

21年秋 来日、集団生活

22年4月 都内小学校に編入

22年9月 難民認定
都外移動、転校



おじいちゃん、おばあちゃん、
○○ちゃんは大丈夫かな

22年2月 パキスタン経由で来日

22年3月 親戚宅近く小学校編入

23年9月 難民認定

■「がくぷろ」で学ぶ子ども達



給食

お祈り

体育、音楽の授業

修学旅行

合唱コン・学芸会



24人

ラマダンが始まったら
学習開始は19時半？

18時半にはモスクへ

クラスは男女別々

■「がくぷろ」で学ぶ子ども達

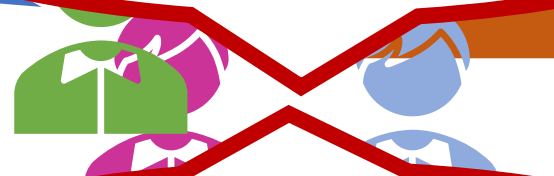


給食

ダイジョウブ〜 😊

お祈り

体育、音楽の授業



ラマダンが始まったら
学習開始は19時半？

修学旅行



仕事がない
生活が大変

18時半にはモスクへ

合唱コン・学芸会

クラスは男女別々

■「子どもの学習支援」＝「家族の生活支援」

※複数事例を混ぜて、例示しています。



父親

- 生活相談対応

母親

- オンライン日本語支援

兄姉

- 日本語学校通学支援



父親

- 健康相談対応

母親

- オンライン日本語支援
- 就労相談対応

兄

- 高校入学準備支援
- 奨学金申請支援

■ 本事業での取り組み

1 日本語・学校教科の学習支援

- ・週に4日間、日本語学習の機会提供、週に1～2日、学校教科の学習支援
- ・「オンライン上の学校」

2 日本語指導者有志チームによる、

JSL対話型アセスメントDLA（Dialogic Language Assessment）」の実施

3 親向け勉強会実施（「教育、社会制度、教育費の備え、防災」などのテーマ）

4 大学生支援者チームとの協働

5 家族との関係づくり、地域の支援者との関係づくり

■ 本事業での取り組み (シフト・DLA結果)

The image displays a comprehensive overview of shift work management. On the left, a large grid shows a multi-week shift schedule for various departments, with different colors representing different shift types. In the center, a detailed handwritten shift plan for a specific day is shown, featuring color-coded blocks for each shift and handwritten notes in Japanese. On the right, a page of handwritten text provides a detailed explanation of the shift work management process, including the challenges faced and the solutions implemented.

「シフト・DLA」の取り組み

「シフト・DLA」の取り組みは、現場の業務の効率化と従業員の負担軽減を目的として行われています。従来のシフト制では、業務の需要に応じてシフトを調整することが難しく、従業員の負担も大きくなっていました。そこで、現場の業務の状況を把握し、シフトを柔軟に調整できるように取り組んでいます。

具体的には、現場の業務の状況を把握し、シフトを柔軟に調整できるように取り組んでいます。また、従業員の負担軽減を図るために、シフトの調整を柔軟に行っています。

この取り組みにより、現場の業務の効率化と従業員の負担軽減が実現されています。今後も、現場の業務の状況を把握し、シフトを柔軟に調整できるように取り組んでいきます。

■「日本語・学校教科の学習支援」展開の中で

- 1 より小グループ、より個別での支援に移行
- 2 こまめな声かけ、連絡、リマインド に注力
- 3 オンライン+（週末）対面教室 開催（3か所）
- 4 まずは「父親」とのやりとり
- 5 DLA実施による、子どもの日本語力の把握、
評価検討による、指導者間の指導面での摺合せ、チームビルディング

■ 事業実施の中で抱える困難

- 1 「タリバン侵攻」による退避という来日の背景から、一括りにしてしまいがちだが「民族（パシュトゥン、ウズベク、タジク、ハザラなど）」「宗教（シーア派、スンニ派）」「母語（ダリ語、パシュトゥー語）」「社会的地位」「親の教育程度」など多様である。
個々の家族がなかなか見えない、人間関係、人的ネットワークが見えない、安易に人と人をつなげられない
- 2 これまでは、成人が一人母国から逃れ、生活が多少安定したところで家族を呼び寄せるといったパターンが一般的であった。（定住支援プログラムの対象は16歳以上。）
家族全員での緊急退避しかも大家族ということで、生活面での安定は困難を極める

■ 事業実施の中で抱える困難

- 3 学校含む日本社会ではイスラム教徒の方々への理解が薄く、
宗教的な部分はアンタッチャブルな事柄として「よく分からない」ままでの状態が続いている
- 4 各地域の教育面のリソースがなかなか見えない、キーパーソンがみつからない、地域とつながりがつけれない
- 5 親も子どもも、ロールモデルがみつからない

■これから

- 1 より効果的な日本語・学校教科の学習支援⇒自律的学習姿勢期待
- 2 母語での教育情報の提供（母親の教育への関与期待）
- 3 親、家族との関係づくり⇒親の教育への具体的関与期待
- 4 各地域での（大学生含む）支援者発掘
⇒子ども・親たちの地域とのつながり期待
- 5 ボランティア支援者の獲得、支援者層の拡充期待

日本にも、難民の支援している団体とかあるけれど、その活動始める段階の前に分かってほしい。

この人間たちは、相当厳しいことをやっている。この日本に住んでいること、相当難しい生活をしている。それはお金がないからとかじゃなくて、まずは住み慣れたところを離れて、どこか知らない国に行くことさえ難しい。

その難しい状況の中に置かれている人間の心の気持ちをわかった上で支援活動を始めてほしい。(原文ママ)

(2023年3月 カディザ・ベゴムさんへのロングインタビューから)

社会福祉法人さぽうと21



〒141-0021

東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル6階

TEL : 03 - 5449 - 1331

E-mail : info@support21.or.jp

平日 10:00 ~ 18:00

さぽうと21



Support 21 Social Welfare Foundation